2020 年度　富山大学特別公開オンラインセミナー

「“ウィズコロナ”に向けて」報告書



2020 年 10 月 12 日

富山大学地域連携推進機構生涯学習部門

１．はじめに

新型コロナウイルス感染症の広がりを防止する観点から、緊急事態宣言が解除されて以降も３密を避けた“新しい生活様式”の実践が求められています。そこで富山大学では、完全に封じ込めることが難しいといわれるこの感染症と向き合い、これからの“ウィズコロナ”に向けた過ごし方を考えるオンラインセミナーを企画しました。この感染症についての情報を広く社会に提供すると共に、社会や学校、家庭で求められる取り組みについて考える機会を、Web 会議システム Zoom を用いて提供しました。

２．実施期間・内容

■実施期間：2020 年 6 月 20 日（土）～9 月 5 日（土）

① コロナウイルスを知ることで、正しい対策を取り、新しいライフスタイルを作りましょう（富山大学長　齋藤　滋）

概要：コロナウイルスについてさまざまな情報が伝えられる中、まずは正しく知ることが肝要です。過去の感染症に学び、これからを予測した上で、求められる取り組みについてお話しました。



② 新型コロナウイルス感染症に対する附属病院の対応と今後の対策（富山大学附属病院長　林　篤志）

概要：新型コロナウイルス感染症という未知の感染症に附属病院がどのように取り組んできたのか？また今後、期待されることや必要なことは何か？をお話ししました。



③ 新型コロナウイルス感染症の検査についてもっと詳しく知ろう（富山大学理事・副学長　北島　勲）

概要：ＰＣＲ等検査とはどのようなものなのか？情報が錯そうしていますので、あらためてその検査方法について解説しました。



④ 新型コロナウイルス感染症を正しく恐れる～第一波を経験して～（富山大学学術研究部 医学系感染予防医学講座　附属病院感染症科／感染制御部・教授　山本　善裕）

概要：富山での第一波は本当に強烈でした。しかし、その波を乗り越えたからこそ見えてきたものがあります。最新の情報を交えて、私たちの経験をご紹介しました。



⑤ 老健クラスターとの戦い ～その対応と原因の検証～（富山大学附属病院総合診療部・教授　山城　清二）

概要：介護老人保健施設（老健）で発生したクラスターは、一時期崩壊寸前の状況になりましたが、幸い6月の半ばには終息の見込みとなりました。その戦いの中から得た多くの学びをお話しました。



⑥ 新型コロナウイルスがもたらす心理的影響とストレスマネジメント（富山大学保健管理センター・講師　西山　志満子）

概要：新型コロナウイルスが私達の心に及ぼす影響について解説し、心を健康に保つストレスマネジメントを紹介しました。



⑦ 手洗いのすゝめ ～正しい手洗い出来ていますか？～（富山大学学術研究部医学系基礎看護学講座・准教授　吉井　美穂）

概要：手洗いの基本とやってしまいがちな落とし穴について一緒に見ていきました。



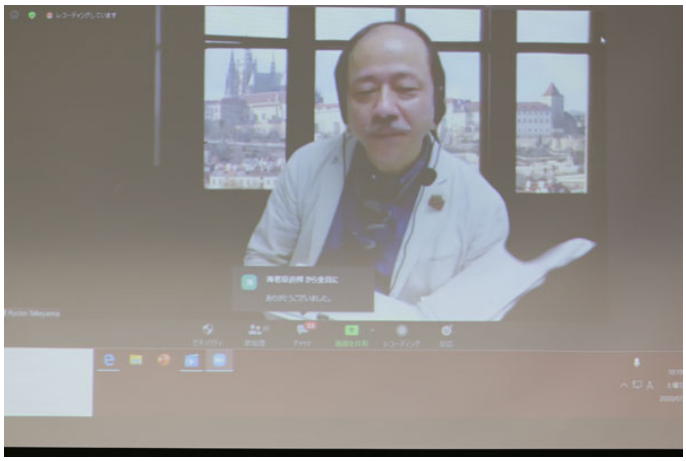
⑧ コロナ禍で学修・教育はどう変わるか～ICT を活用したオンライン事例から考える～（富山大学医師キャリアパス創造センター・助教　附属病院消化器内科・診療講師　三原　弘）

概要：コロナ禍で三密を避けた学修・教育の必要性から従来の対面での講義、実習、試験が急速に変革を求められています。オンデマンド型授業が学習管理システムから提供され、実習はテレビ会議システムを用いて実施され、多肢選択試験だけでなく実技試験までもがオンライン化の必要性が出てきています。聴講者と情報共有し、ピンチをチャンスに変えることを考えました。



⑨ 遠隔授業の課題と可能性～学生・教員向けアンケート結果から考える～（富山大学理事・副学長　武山　良三）

概要：遠隔授業について、学生及び教員に実施したアンケートの結果を元に、その課題と可能性について考えました。



⑩ 地域を繋げるコミュニティビジネス（富山大学地域連携戦略室長・教授　金岡　省吾）

概要：富山県他で実施した地域再生人材塾から明らかになってきた、コミュニティがあるからこそ成立するビジネス、地域が繋がることで成長する社会について考えました。



⑪ 学生に魅力ある企業をつくる（富山大学域連携戦略室・特命准教授　尾山　真）

概要：地域の活性化には若い力が不可欠です。観点を変えて事業を見直し、埋もれている資源を磨いて事業所を魅力化するポイントについて解説しました。



⑫ ラフカディオ・ハーンと感染症～明治末わが国におけるコレラ流行を中心に～（富山大学学術研究部 人文科学系・教授　中島　淑恵）

概要：人の生き死にを深く思索したラフカディオ・ハーンと当時猖獗を極めた感染症との関連についてお話ししました。



⑬ 新型コロナに対して工学部が出来た事～MIT based 人工呼吸器～（富山大学学術研究部 工学系（電気電子工学コース担当）・准教授　戸田　英樹）

概要：「疫病」という未曾有の状況が 2020 年が始まる初頭に始まりました。ここでは 3 月に芸術文化学部の林暁先生からの依頼で始まった工学部謹製による人工呼吸器の七転八倒開発秘話をお披露目しました。



⑭ 日本経済と新型コロナショック（富山大学学術研究部 社会科学系・准教授　山田　潤司）

概要：新型コロナウイルスの感染拡大が日本経済に与えた影響を確認するとともに、政府が進める経済対策の概要を紹介しました。



⑮ コロナショックと中国経済への影響を探る（富山大学学術研究部 社会科学系・准教授　馬　欣欣）

概要：中国データに基づいて、感染症の流行期における中国経済の実態を明らかにし、また中国政府のコロナショック対策を議論しました。



⑯ 自宅で楽しむ絵画　人体を描く（富山大学学術研究部 芸術文化学系・講師
松村　浩之）

概要：人体の描き方や鑑賞の仕方、作家の苦労やこだわりについて、絵画や彫刻、漫画作品をもとに説明しました。



⑰ 自宅で楽しむ健康スポーツ（富山大学学長補佐、教養教育院副院長・教授
鳥海　清司）

概要：インターネット上の教材を取り入れながら、自分自身の運動プログラムを作るために必要なことについて学びました。



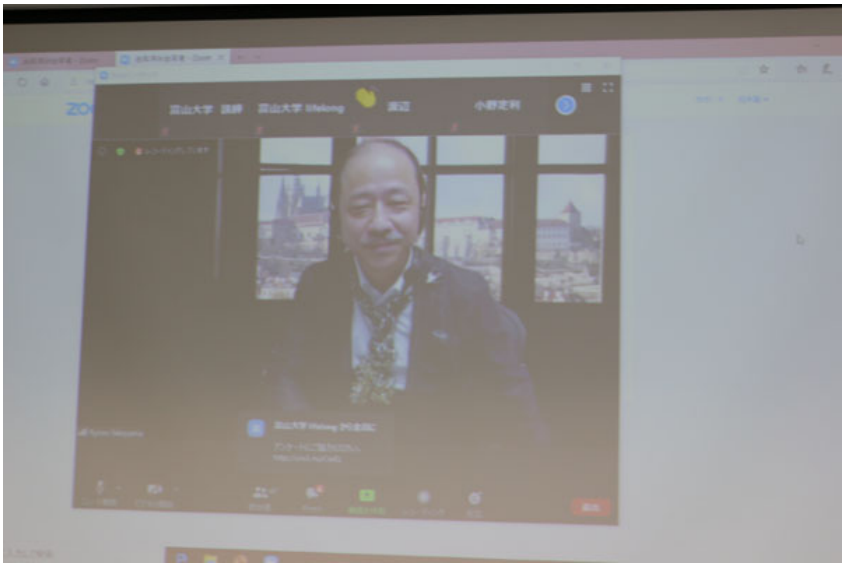
⑱ 地域で楽しむ仏像鑑賞のポイント～見方の基本から県内のおすすめ作品まで～（富山大学学術研究部 芸術文化学系・准教授　三宮　千佳）

概要：古典作品で簡単にポイント説明した上で、富山県内のおすすめ仏像を紹介しました。



⑲ 地域を楽しむ身近な景観観察学（富山大学理事・副学長　武山　良三）

概要：旅行が制限されるウィズコロナの生活は、地域を見直す良い機会にもなります。身近な景観を楽しむ方法を紹介しました。



３．申込者数・参加者数・参加率

本セミナーは、事前申込制により受講希望者に対し E-mail にて開催案内を送付する形をとった。各回の事前申込者数と、実際に受講した参加者数は表１の通りである。

延べ申込者数は 1914 人、延べ参加者数は 1262 人、参加率は 65.9%だった。

表１　セミナー申込者数・参加者数・参加率

	開催日時	申込者数	参加者数	参加率
1	6/20　1限	111	99	89.2%
2	6/20　2限	89	78	87.6%
3	6/27	100	77	77.0%
4	7/4　1限	165	128	77.6%
5	7/4　2限	129	97	75.2%
6	7/11　1限	117	80	68.4%
7	7/11　2限	84	55	65.5%
8	7/18　1限	109	66	60.6%
9	7/18　2限	104	59	56.7%
10	7/25　1限	97	56	57.7%
11	7/25　2限	83	47	56.6%
12	8/1　1限	156	111	71.2%
13	8/1　2限	67	41	61.2%
14	8/8　1限	96	56	58.3%
15	8/8　2限	82	44	53.7%
16	8/29　1限	66	35	53.0%
17	8/29　2限	71	27	38.0%
18	9/5　1限	88	54	61.4%
19	9/5　2限	100	52	52.0%
	合計	1914	1262	65.9%

４．アンケート集計結果

（１）性別と年齢

セミナー参加者に対し、Web アンケートを実施した。延べ 1262 人の受講者のうち、657 人から回答を得ることができた。回答率は 52.1%である。回答者の性別をみると、女性 381 人（58.0%）、男性 276 人（42.0%）であり、女性聴衆の割合が高かった。また、回答者の年齢をみると、20 歳未満 49 人（7.5%）、20 代 42 人（6.4%）、30 代 32 人（4.9%）、40 代 192 人（29.2%）、50 代 213 人（32.4%）、60 代 65 人（9.9%）、70 代 60 人（9.1%）、80 代以上 4 人（0.6%）となっている。この結果をみると、40～50 代のいわゆる「働き盛り・子育て世代」の割合が高く、あわせて 61.6%にのぼる。セミナーは土曜日午前に開講されたが、このことが、働きながら学びたい世代をひきつけた結果であるとも考えられる。

表２は回答者の性別と年齢をクロスさせた結果である。30 代以下は性別の偏りが少ないが、40～50 代は女性（75.3%＞42.8%）、60 代以上は男性（36.6%＞7.3%）の割合が高くなっている。

表２　性別×年齢***

		３０代以下	４０～５０代	６０代以上	合計
女性	度数	66	287	28	381
	%	17.30%	75.30%	7.30%	100.00%
男性	度数	57	118	101	276
	%	20.70%	42.80%	36.60%	100.00%
合計	度数	123	405	129	657
	%	18.70%	61.60%	19.60%	100.00%

（２）セミナーを知ったきっかけ

セミナーを知ったきっかけについてみてみよう。多い順でみると、Web サイト 288 人（43.8%）、友人・知人・家族の紹介 140 人（21.3%）、新聞報道 66 人（10.0%）、メールマガジン 61 人（9.3%）、その他となっている。高度情報社会の今日、電子媒体によるＰＲの力の強さを感じさせる結果となっている。

続いて表３と表４は、性別、年齢別にセミナーの存在を知ったきっかけについてたずねた結果である。

表３　性別×セミナーを知ったきっかけ***

		Webサイト	メールマガジン	新聞報道	友人・知人・家族	その他	合計
女性	度数	173	16	45	78	69	381
	%	45.40%	4.20%	11.80%	20.50%	18.10%	100.00%
男性	度数	115	45	21	62	33	276
	%	41.70%	16.30%	7.60%	22.50%	12.00%	100.00%
合計	度数	288	61	66	140	102	657
	%	43.80%	9.30%	10.00%	21.30%	15.50%	100.00%

表４　年齢×セミナーを知ったきっかけ***

		Webサイト	メールマガジン	新聞報道	友人・知人・家族	その他	合計
３０代以下	度数	72	7	1	13	30	123
	%	58.50%	5.70%	0.80%	10.60%	24.40%	100.00%
４０～５０代	度数	176	18	44	102	65	405
	%	43.50%	4.40%	10.90%	25.20%	16.00%	100.00%
６０代以上	度数	40	36	21	25	7	129
	%	31.00%	27.90%	16.30%	19.40%	5.40%	100.00%
合計	度数	288	61	66	140	102	657
	%	43.80%	9.30%	10.00%	21.30%	15.50%	100.00%

表３で性別による違いについてみてみると、Web サイトはそれほど偏りがないが、メールマガジンは男性の割合が高くなっている（16.3%＞4.2%）。メールマガジン講読者の男性割合が高いことに起因しているのかも知れない。

表４で年齢別による違いについてみてみると、若い世代ほど Web サイトでセミナーを知った割合が高くなっている（58.5%＞43.5%＞31.0%）。逆に新聞報道で知ったとする割合はシニア層にかけて多くなる（16.3%＞10.9%＞0.8%）。このことはメールマガジンも同様の傾向がうかがわれる。友人・知人・家族を通じて知ったのは 40～50 代の中年層に多い（25.2%）。なお、詳細については不明だが、「その他」でセミナーを知ったとする割合は若い世代ほど高くなっている（24.4%＞16.0%＞5.4%）。

（３）セミナーの満足度

セミナーの受講者はどれくらい満足感を得たのかをみてみたい。全体としては、「非常に満足」が最も多く 395 人（60.1%）、「やや満足」215 人（32.7%）、「ふつう」38 人（5.8%）、「やや不満」6 人（0.9%）、「不満」3 人（0.5%）、という結果となっている。「非常に満足」と「やや満足」を合わせると 610 人（92.8%）にのぼっており、おおむね良好な評価を得たと言ってよいだろう。

続いて表５と表６は、性別、年齢別にセミナーの満足度についてたずねた結果である。

表５　性別×満足度**

		満足	ふつう	不満	合計
女性	度数	362	18	1	381
	%	95.00%	4.70%	0.30%	100.00%
男性	度数	248	20	8	276
	%	89.90%	7.20%	2.90%	100.00%
合計	度数	610	38	9	657
	%	92.80%	5.80%	1.40%	100.00%

表６　年齢×満足度**

		満足	ふつう	不満	合計
３０代以下	度数	119	3	1	123
	%	96.70%	2.40%	0.80%	100.00%
４０～５０代	度数	381	18	6	405
	%	94.10%	4.40%	1.50%	100.00%
６０代以上	度数	110	17	2	129
	%	85.30%	13.20%	1.60%	100.00%
合計	度数	610	38	9	657
	%	92.80%	5.80%	1.40%	100.00%

表５をみると、女性の「満足」の割合が少し高く、男性の「ふつう」の割合が少し高くなっている。性別による大きな違いはみられなかったようだ。

表６をみると、シニア層の「満足」の割合が相対的に低く、「ふつう」の割合が高くなっている。はっきりとしたことは言えないが、若い世代はデジタル機器との親和性が高く、シニア世代は対面的教育活動に親しみがあるということに起因した結果だろうか。

５．まとめにかえて

最後に、自由記述からセミナーの学習状況や成果についてうかがっていきたい。

＜医学的知識や医療関係者の仕事の理解が深まった＞

▲新型コロナウイルスの感染を、歴代のパンデミックと照らし合わせてわかりやすくご説明いただき、理解することができました。第２波が秋～冬に必ずやってくると断言されていたのも、今後の自分の行動の参考にしたいと思いました。約 45 分間の講演の中で、要点を非常にわかりやすく、ニュースを見ていても分からない部分を説明していただき、感銘を受けました。
▲医学的な正しい見地からの説明と、意見を発信していただき、大変有意義でした。今日の受講者だけでなく、広く発信していただければと思いましたので、富大のホームページにそのような場所があればと思います。
▲富山大学附属病院の対応がわかり、医療従事者の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。今後私たち一般市民も病院に受診する際は常に感染症予防していきたいと思います。
▲検査のフローチャートや、検査に関する用語など、検査に関する情報を読むときに必要になる基本的なことがわかりました。
▲PCR 検査の必要性やその対象、効果、抗体検査や抗原検査との違いが、比較されてくる中でとてもよくわかりました。また検査が有病率で差が出ること、また、感度、特異度、陽性率などの算出方法とその違いなどわかり易い形で教えていただきました。検査の基本が様々な形で学ぶことができました。ただ単に PCR 検査を実施すればいいというわけではないこともよくわかりました。
▲テレビのニュースで聞いた難しい専門語の意味を詳しく知ることが出来ました。
▲巷やテレビなどで報道されていることを判断する学術的な裏付け。
▲平時できていないことは有事にもできない。最後に先生がおっしゃった言葉、なるほど、と思いました。
▲今までなんとなく耳にしていた言葉を、講義として聞くことができなるほどと思った。子供が大学で地域ビジネスを学んでいるので、子供と話が共有できる。

＜オンライン学習の有意義さについて＞

▲オンライン化やネット活用の必要性に加えて、最終的には人間性が必要、と言ったお話が心に響きました。

▲まずzoomで開催されたこと、感染の心配がないことと物理的にも受けやすいこと、またわかりやすい解説で、今後私たちが何に気を付ければいいのか？がよくわかりました。
▲情報が新しいのがこの講座の期待しているところでした。富山県の感染症の第一人者に直接ご教授して頂けることはないので、心待ちにしていた講座でした。事前資料で話の流れが予測でき、ありがたかった。
▲医療従事者と介護従事者がコロナウィルスに立ち向かってケアされている状況を動画で確認できたことは大変貴重な時間であり、山城先生が私たちに理解しやすく説明していただきましたことに感謝いたします！
▲資料の公開・配布をお願いできないでしょうか。
▲遠方にいながら、富山大学のセミナーに参加出来ること。
▲授業というものが必ずしも同時双方向型でなければならないというものではなく、オンデマンド型に移行可能な部分が多い、ということが確認できました。
▲動画を流しながら、それに対するコメントをチャットで入れていくスタイルが、私にとっては新鮮に感じられました。実習をどうやってオンラインでやっていくのか興味があったのですが、置き換え、という方法である程度補えるのも分かりました。やはりオンラインではできない部分というのもありますが、ある程度まで補えるということが、コロナ禍では必要だと感じました。
▲遠隔授業ツールがZOOMやMoodle以外にも大変多いということがわかりました。対応する方も大変だと思いますが、学生時代にいろんなツールに習熟しておくことは社会へ出てから大いに役立つのではないかと感じました。
▲ビデオ講義で、講義者が講義中にチャットで多くのフォローをするという手法が目新しくてとても面白かったです。
▲情報量の多さ。質問とフィードバックがあること。

＜職業や日常生活にいかす＞

▲時間を超過してもマインドフルネス瞑想を体験できたので良かった。社会的感染ということを興味深く聞いた。人の恐怖や不安をどう解消していくかが大事であると思った。
▲手洗いと手指消毒の区別、その併用、それぞれのポイントが良くわかりました。
▲福祉施設に勤めており、現在コロナウイルスの自粛期間明けからストレス状態にある子どもがいる。その子達への関わりのヒントが得られたらと思って受講したので、今日の学びを生かしたいと思っている。
▲スポーツをする際にも、目的を考えながら運動種目や動かす部位を選ぶのが効果的というのと、楽しく続けられる仕組みが必要ということが良く理解できました。
▲街歩きが趣味なのですが、これから自然の観察の仕方、景観の注目の仕方が変わり、今まで以上に街歩きの楽しみが倍増します。

▲八尾のポストや井波のネコを探しに行きたいと思います。

＜大学の研究について理解が深まる＞

▲先生方がご苦労されながらも、創意工夫によって教育活動を維持されている点が非常によくわかりました。この度は参加させていただきまして、ありがとうございました。
▲地域問題を企業がチャンスとして捉えて活動していることがよくわかった。魚津三太郎塾という存在を初めて知りもっと知りたいと思った。自分は高校生ですが改めて地域問題の解決に関わりたいと思った。
▲テキストマイニングやアンケートデータの主成分分析等によって、見えない傾向をつかんでいるところがとても興味深かったです。また、構造化面接と非構造化面接の違いと影響もとても参考になりました。
▲高校生の息子と拝聴いたしました。進学のために大学訪問がなかなかできない中、大学ではどんなことが学べるか、専門的な学びとはどのような感じであるかなど、興味深く知ることができました。
▲富山にいながら、初めてハーンの話を聞きました。
▲生きていくためには、医療の知識だけでなく、文学を学ぶ事で乗り越えられることに気づかされました。
▲大学での地道な研究の様子を知ることができました。ご家族のことも少し話されて、親近感がもてました。ありがとうございました。
▲人工呼吸器開発に伴う取り組みの実際の一端に触れることが来たこと。
▲今回のコロナショックの経済に与える影響が、リーマンショックを遥かに超えるものであることがグラフでわかりやすく説明いただきました。
▲中国のコロナ世界突入から、現在に至るまでの、各産業と地域住民の関係や、諸外国との比較が大変参考になった。また、高齢者を大切に思う福祉対策について尽くされていることが、今後の中国の未来に新しい光をともしている要素になっていると感じている。
▲マンガのデフォルメ表現が西洋の筋肉を表現する文化から綿々とつながっていたのだり理解でき、とても興味深かったです。また、質問させていただいたAIについての回答もとても興味深いものでした。
▲仏像をみれば時代がわかる、ということがわかりました。時代を想像する楽しみが出てくるように感じました。

以上にみたように、オンラインセミナーの実施はきわめて大きな効果と可能性を感じさせる結果となった。「遠方にいながら、富山大学のセミナーに参加出来ること」を評価する声もあり、ネットを通じることで教育成果が広がりをみせている。「授業というものが

必ずしも同時双方向型でなければならないというものではなく、オンデマンド型に移行可能な部分が多い、ということが確認できました」という感想は示唆的である。

このたびの受講者は、セミナーを通じて、医学的知識を正しく学ぶという面だけでなく、「テレビのニュースで聞いた難しい専門語の意味を詳しく知ることが出来ました」「巷やテレビなどで報道されていることを判断する学術的な裏付け」を知るきっかけとなるなど既知のことがらに対し深まりをみせている。さらに、日常生活や職業にいかしたい、という声がみられた点も見逃せない。

また、今回のセミナーを通じて大学の世界を知るきっかけになっている点も重要である。「自分は高校生ですが改めて地域問題の解決に関わりたいと思った」「高校生の息子と拝聴いたしました。進学のために大学訪問がなかなかできない中、大学ではどんなことが学べるか、専門的な学びとはどのような感じであるかなど、興味深く知ることができました」などは注目すべき感想と言えよう。コロナ問題ばかりではなく、大学で不断に展開されている様々な研究テーマとその追究への努力を知るきっかけとなった点は、今回のセミナーの大きな到達点の一つと言ってもよいのではないだろうか。

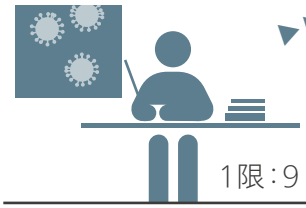
University of Toyama

富山大学 特別公開オンラインセミナー
“ウィズコロナ”に向けて

受講生募集

新型コロナウイルス感染症の広がりを防止する観点から、緊急事態宣言が解除されて以降も３密を避けた“新しい生活様式”の実践が求められています。そこで富山大学では、完全に封じ込めることが難しいといわれるこの感染症と向き合い、これからの“ウィズコロナ”に向けた過ごし方を考えるオンラインセミナーを企画しました。この感染症についての情報を提供すると共に、社会や学校、家庭で求められる取り組みについて解説します。遠隔授業により自宅で受講できますので、お気軽にご参加いただきますようお願いします。

受講無料の
19講座
興味に応じて
何講座でも受講可



▶▶▶対象は「Zoom」ミーティングに参加可能なインターネット環境がある方▶▶▶
申し込み方法は裏面をご覧ください
▶▶▶定員は各200名（事前申込制）、**受講料は無料**です▶▶▶



1限：9：30～10：15　2限：11：00～11：45

6月20日（土）	1限	「コロナウイルスを知ることで、正しい対策を取り、新しいライフスタイルを作りましょう」 **齋藤　滋**　／富山大学長
	2限	「新型コロナウイルス感染症に対する附属病院の対応と今後の対策」 **林　篤志**　／富山大学附属病院長
6月27日（土）	1限 2限	「新型コロナウイルス感染症の検査についてもっと詳しく知ろう」 **北島　勲**　／富山大学理事・副学長
7月4日（土）	1限	「新型コロナウイルス感染症を正しく恐れる ～第一波を経験して～」 **山本善裕**　／富山大学学術研究部 医学系感染予防医学講座 附属病院感染症科／感染制御部・教授
	2限	「老健クラスターとの戦い ～その対応と原因の検証～」 **山城清二**　／富山大学附属病院総合診療部・教授
7月11日（土）	1限	「新型コロナウイルスがもたらす心理的影響とストレスマネジメント」 **西山志満子**／富山大学保健管理センター・講師
	2限	「手洗いのすゝめ ～正しい手洗い出来ていますか？～」 **吉井美穂**　／富山大学学術研究部 医学系基礎看護学講座・准教授
7月18日（土）	1限	「コロナ禍で学修・教育はどう変わるか ～ICTを活用したオンライン事例から考える～」 **三原　弘**　／富山大学医師キャリアパス創造センター・助教、附属病院消化器内科・診療講師
	2限	「遠隔授業の課題と可能性 ～学生・教員向けアンケート結果から考える～」 **武山良三**　／富山大学理事・副学長、教養教育院長

【後半10講座は裏面に掲載】

※ZoomはZoom Video Communications, Inc.の商標

申し込み：Webの申し込みフォームに必要事項をご記入の上、お申し込みください。
お申し込み頂いた方には、別途ミーティング参加に必要な情報をお伝えします。
http://www.life.u-toyama.ac.jp

注意事項：あらかじめ「Zoom」のインストール、動作確認等を済ませて、ご参加ください。

受講料：　無料とします。

問合せ先：富山大学地域連携推進機構（生涯学習部門）
E-mail lifelong@ctg.u-toyama.ac.jp　Tel. 076-445-6956　Fax. 076-445-6033

1限：9：30～10：15　2限：11：00～11：45

7月25日（土）	1限	「地域を繋げるコミュニティビジネス」 **金岡省吾**　／富山大学地域連携戦略室長、教授
	2限	「学生に魅力ある企業をつくる」 **尾山　真**　／富山大学域連携戦略室・特命准教授
8月1日（土）	1限	「ラフカディオ・ハーンと感染症 ～明治末わが国におけるコレラ流行を中心に～」 **中島淑恵**　／富山大学学術研究部 人文科学系・教授
	2限	「新型コロナに対して工学部が出来た事 ～MIT based人工呼吸器～」 **戸田英樹**　／富山大学学術研究部 工学系（電気電子工学コース担当）・准教授
8月8日（土）	1限	「日本経済と新型コロナショック」 **山田潤司**　／富山大学学術研究部 社会科学系・准教授
	2限	「コロナショックと中国経済への影響を探る」 **馬　欣欣**　／富山大学学術研究部 社会科学系・准教授
8月29日（土）	1限	「自宅で楽しむ絵画　人体を描く」 **松村浩之**　／富山大学学術研究部 芸術文化学系・講師
	2限	「自宅で楽しむ健康スポーツ」 **鳥海清司**　／富山大学学長補佐、教養教育院副院長・教授
9月5日（土）	1限	「地域で楽しむ仏像鑑賞のポイント ～見方の基本から県内のおすすめ作品まで～」 **三宮千佳**　／富山大学学術研究部 芸術文化学系・准教授
	2限	「地域を楽しむ身近な景観観察学」 **武山良三**　／富山大学理事・副学長、富山県景観審議会会長

【前半10講座は表面に掲載】